

12月 第2課 王である祭司

”しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。”(Iペテロ2:9)

今日の本文のみことばに対して聖書で最初に約束しているところが出てエジプト記19章です。5-6節を読みましょう。

”いま、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」(出19:5-6)

ここでは国と祭司となる条件が付いています。「わたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら」と。しかし、みなさんがよく知っているように、出エジプトしたイスラエルは、カナンに入るまで荒野の40年を過ぎるとき、神様のみことばとは反対の生活を送っていました。その結果が、出エジプトした第1世代は、ヨシュアとカレブ以外はすべて荒野で死んで、荒野で生まれた第2世代が約束の地に入ったのです。聖書のイスラエルは、私たちのことを言います。私たちは、神様のみことばの約束を守る力も実力もない者たちです。それゆえ、イエス・キリストが来られ、すべてを成し遂げてくださったのです。その成就のみことばがヨハネの黙示録1章5-6節です。

“また、確かな証人、死者の中から最初に生まれた方、地の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにあるように。私たちを愛し、その血によつて私たちを罪から解き放ち、また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、榮光と力が世々限りなくあるように。アーメン。”  
(黙示録1:5-6)

どのようにして國と祭司としてくださったのでしょうか。イエス・キリストの血で私たちを罪から解放してくださったことによって。

上ののみことばに、王である祭司、祭司の王国、聖なる国民など、様々な表現をしていますが、すべて同格の表現です。王がすなわち國であり、國がすなわち祭司だということです。そのような意味で、キリストの三職務をすべて含んでいるみことばであるとも見ることができます。王の王であるキリスト、神様に会う道、すなわち天国に通じる唯一のみ道となった預言者であるキリスト、罪から解放してくださった祭司であるキリスト。

このようなイエス・キリストの三職務の使節として、私たちが選ばれて、神の(所有された)ものになったのです。それはキリストが十字架の死と復活を通してキリストの働きを成し遂げたように、私たちも日々の生活の現実の中で、私は十字架で死んで、私の中にイエス・キリストだけが生きておられることを自覚し、告白し、誇る人生を生きなければならないのです。

“もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてください、神の御子に対する信仰によるのです。”(ガラ2:20)

”しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません。この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました。”(ガラ6:14)

今日の本文に光を告げ知らせるというみことばが、まさに人々の前で発表する、大きく誇るという意味です。